

構造設計標準仕様

※修正箇所は下線を引くこと
適用は 印を記入する。

1. 建築物の構造内容

- (1) 建築場所 座間味村字座間味260-1番地
- (2) 工事種別 新築 増築 増改築 改築
- (3) 構造種別
 木造 (W) 補強コンクリートブロック造 (CB) 鉄骨造 (S)
 鉄筋コンクリート造 (RC) 壁式鉄筋コンクリート造 (WRC)
 鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC) 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造 (WPRC)
 プレキャスト鉄筋コンクリート造 (PRC)
- (4) 階数 地下 階 地上 2 階 塔屋 階
- (5) 主要用途 倉庫
- (6) 屋上付属物
 高架水槽 キュービクル kN 広告塔 煙突
- (7) 特別な荷重
 エレベータ 人乗 (マンホールメス ロープ式 油圧式) リフト kN ホイスト kN
 倉庫積載用 kN 消火水槽 kN
- (8) 付帯工事
 門扉 擁壁 無
- (9) 増築計画 有 () 無
- (10) 構造計算ルート X方向ルート (1) Y方向ルート (1)
- (11) 表記外は公共建築工事標準仕様書(最新版)による

2. 使用構造材料一覧表

(1) コンクリート

適用箇所	種類	設計基準強度 F _c =N/mm ²	品質管理強度 R _m =N/mm ²	スラブ 厚	備考
地中コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 15 <input type="checkbox"/> 18 <input type="checkbox"/> 21		15	
基礎・地中梁・土間コンクリート	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 27 <input type="checkbox"/> 30	21・3・24	15	
柱・梁・床・壁	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 27 <input type="checkbox"/> 30	21・3・24	18	
柱・梁・床・壁	<input type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 21 <input type="checkbox"/> 24 <input type="checkbox"/> 27 <input type="checkbox"/> 30		18	
縦骨材の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 砂 <input type="checkbox"/> 山砂 <input type="checkbox"/> 人工				
横骨材の種類	<input type="checkbox"/> 砂利 <input checked="" type="checkbox"/> 砕石 <input type="checkbox"/> 人工				
水の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 水道水 <input type="checkbox"/> 地下水 <input type="checkbox"/> 工業用水				
混練材の種類	<input checked="" type="checkbox"/> A E減水剤 <input type="checkbox"/> 高性能A E減水剤 <input type="checkbox"/> コンクリート防錆剤 (NR-1900同等品)				
呼び強度を保証する材料	<input checked="" type="checkbox"/> 28日 <input type="checkbox"/> 96日				

※暑中コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、品質管理強度+3N/mm²とする。※単位水量は、185kg/m³以下とする。

(2) コンクリートブロック (CB)

- A種 B種 C種 厚 100、 120、 150

(3) 鉄筋

種類	径	使用箇所	継手工法	
異形鉄筋	<input checked="" type="checkbox"/> S D295A	D10~D16	懸垂一般	<input checked="" type="checkbox"/> 重ね継手 D10~D19 <input type="checkbox"/> ガス圧接継手 D19~ <input type="checkbox"/> 特殊継手
	<input type="checkbox"/> S D295B			
	<input checked="" type="checkbox"/> S D345	D19~D25	懸垂一般	
	<input type="checkbox"/> S D390	D29~	懸垂一般	
高強度せん断補強筋	<input type="checkbox"/> MW765 (SPR765)	K13 (T13)		
丸 鋼	<input type="checkbox"/> S R235			
溶接鋼筋 (JIS G 3551)	<input type="checkbox"/> 棒子			

(4) 鉄骨

種類	使用箇所	溶接	備考
<input type="checkbox"/> S S400 <input type="checkbox"/> S M400 <input type="checkbox"/> S N400A <input type="checkbox"/> S N400B		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 0.9F <input type="checkbox"/> 1.0F
<input type="checkbox"/> S N490B <input type="checkbox"/> S T K R400		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 0.9F <input type="checkbox"/> 1.0F
<input type="checkbox"/> B C R 2 9 5 <input type="checkbox"/> B C P 235		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 0.9F <input type="checkbox"/> 1.0F
<input type="checkbox"/> S M490C <input type="checkbox"/> S N R 490B <input type="checkbox"/> S N R 490		<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 0.9F <input type="checkbox"/> 1.0F
<input type="checkbox"/> S S C 400			

(5) ボルト

- 高力ボルト
 普通: F8T S10T 認定品 (M16、 M20、 M22、 M24)
 中ボルト
M
高力ボルトすべり係数試験 要 否
 アンカーボルト
M
高力ボルト導入張力確認試験 要 否
 S N R 400 S R 400
M
L = mm ナット (シングル、 ダブル)
L = mm ナット (シングル、 ダブル)
 頭付スタッドボルト
φ = mm 使用箇所 (柱 大梁 小梁)
φ = mm 使用箇所 (柱 大梁 小梁)

(6) 屋根、床、壁

- A L C版 壁厚 スライド構法 ボルト止め構法 ロッキング構法
 折 版 H = 厚
 テッキプレート 型式 厚
 嵌め込み式瓦葺きキャップ工法2点固定 材質: フッ素ガリバリウム鋼板 t=0.4mm
 ステンレスシーム溶接工法 (H35、@265) 材質: フェライト系ステンレス t=0.4mm
 普通型枠

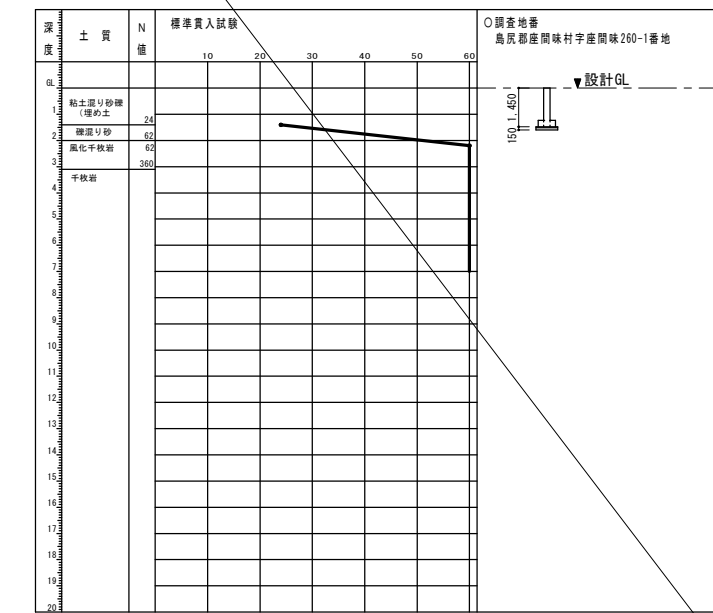
3. 地盤

(1) 地盤調査資料と調査計画

調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画	調査項目	資料有り	調査計画
ボーリング調査	有り		静的貫入試験			標準貫入試験	有り	
水平地盤反力係数の測定			土質調査			物理探査		
試験掘 (支持層の確認)			平板載荷試験			液状化判定		
スウェーデン式サウンディング			現場透水試験			P S探層		

注) 上記表中の資料があるもの、調査計画があるものに○を記入する。

(2) ボーリング標準貫入値、土質構成



4. 地業工事

- (1) 直接基礎 直接基礎 布基礎 杭基礎 試験掘 有 無
基礎梁天端 - 0.00m 支特層 - 干枚岩 載荷試験 有 無
長期許容支持力度
(2) 杭基礎 支特層

杭種	材料	施工法	備考
<input type="checkbox"/> R C <input type="checkbox"/> P R C <input type="checkbox"/> P H C <input type="checkbox"/> H 鋼 <input type="checkbox"/> 鋼管 <input type="checkbox"/> 鋼管杭 <input type="checkbox"/> S C 杭	PRC (<input type="checkbox"/> I種 <input type="checkbox"/> II種 <input type="checkbox"/> III種 <input type="checkbox"/> IV種) PHC (<input type="checkbox"/> A種 <input type="checkbox"/> B種 <input type="checkbox"/> C種) 鋼材 <input type="checkbox"/> S T K 400 <input type="checkbox"/> S T K 490 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 打ち込み (棒-引) 併用打撃工法) <input type="checkbox"/> 埋込み <input type="checkbox"/> インジプラス工法 (認定工法) <input type="checkbox"/>	認定番号: 認定番号:
<input type="checkbox"/> 場所打ち <input type="checkbox"/> コンクリート杭	コンクリート F _c N/mm ² スラブ セメント量 kg/m ³ 鉄筋 主筋 SD HOOP SD	<input type="checkbox"/> オールケーシング <input type="checkbox"/> 拡張杭 <input type="checkbox"/> リバースサーキュレーション <input type="checkbox"/> アースドリル <input type="checkbox"/> ミニアース <input type="checkbox"/> BH <input type="checkbox"/> 深礎 <input type="checkbox"/> 機械掘	認定 年 月 日

杭仕様 施工計画書承認 杭施工結果報告書

試験杭 (有 無) (打ち込み 載荷 孔壁測定) 本

杭径 (mm)	設計支持力 (kN)	杭の先端の深さ (m)	本数	特記事項

(3) 地盤改良工事

トップベース工法

- (4) 建築基準法施行規則別表2 (1) に定める施工方法等計画書について
建築工事監理指針に従って鋼管杭の地業を回転圧入工法にて施工する。

5. 鉄筋コンクリート工事 (施工方法等計画書)

本標準仕様書及び鉄筋コンクリート構造配筋標準図はコンクリートの設計基準強度 (F_c) が21N/mm²以上、かつ、36 N/mm²以下に適用する。

(1) コンクリート

- コンクリートは J I S 認定工場製の製品とし、施工に関しては、標準図に記載されている事項を除き J A S S 5 による。
- 耐久設計基準強度 F_d 一般 標準 長期
- セメントは、J I S R 5 2 1 0 の普通ポルトランドセメントを標準とする。
- 調査計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
- 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当る場合は、調査、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得ること。
- フレッシュコンクリートの塩化物測定は、原則として工事現場で (財) 国土開発技術研究センターの技術評価をうけた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定器の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真 (カラー) を保管し承認を得る。
測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。【試験回数は、公共建築工事標準仕様書 (平成31年度版) による。】
- 構造体コンクリートについて現場の圧縮強度試験供試体 (J A S S 5 T - 6 0 3) は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は、打ち込み区ごと、打ち込み日ごととする。
また、打ち込み量が150 m³をこえる場合は150 m³ごとなし、その端数ごとに一回を標準とする。
一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の運搬車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4通用に3本を用いる。
- ポンプ打ちコンクリートは、打ち込む位置にできるだけ近づけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さはコンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士または、同以上の技能を有する者が従事すること。なお、打ち込み継続中における打継ぎ時間間隔の限度は、外気温が25℃以下の場合は90分以内、25℃を超える場合は60分以内とする。
- 締固めは、コンクリート棒型振動機・型枠振動機または突き棒を用いて行い、鉄筋および埋設物などの周辺や型枠の隅々までコンクリートが充填され、密実なコンクリートが得られるように行う。
- コンクリートの打継ぎ面は、レイタンス、流麗なコンクリート、ゴミなどを取り除き、新たに打ち込むコンクリートと一体となるように処置する。
- 打ち込み後のコンクリートは、透水性の小さいせき板による被覆、養生マットまたは水密シートによる被覆、散水・噴霧、養生剤の塗布などにより潤滑養生を行う。【期間は、JASS5の表8.1を参照】

(2) 鉄筋

- 鉄筋は J I S G 3 1 1 2 の規格品を標準とする。施工は、標準図に記載されている事項を除き、J A S S 5 による。
- 高強度せん断補強筋は、J I S G 3 1 3 7 に規定されるD種1号適合品とする。
- 鉄筋の加工寸法、形状、設計がぶり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さは「鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」または「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1) (2)」による。
- D19以下は、すべて重ね継手とする。継手 (D21以上) をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
- ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと (200箇所を超えるときは、200箇所ごと) に1回行い、1回の試験は5本以上とする。
外観検査 有 無 引張試験 有 無 超音波探傷試験 有 無
- 柱の帯筋 (HOOP) の加工方法は、 H型 (タガ型) W型 (溶接型) S型 (スパイラル型) とする。
- コンクリート及び鉄筋の試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条の試験機関で行うこと。
試験機関名 (都知事登録 号)
代行業者名
代行業者とは、試験・検査に伴う業務を代行するものを言う。

(3) 型枠

- 材料 合板厚 12mmを標準とする。
- 施工 J A S S 5 による。

型枠配置図

種類	せき板				支柱			
	基礎、はり側、柱、壁		スラブ下、はり下		スラブ下		はり下	
セメントの 種類 貯蔵期間 の 経過	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント	早強ポルト ランドセメント	
	高炉セメント A種	高炉セメント A種	シリカセメント A種	シリカセメント A種	高炉セメント A種	高炉セメント ランドセメント	シリカセメント A種	
コン クリ ート	15℃以上	2	3	4	6	8	17	28
	5℃~15℃	3	5	6	10	12	25	28
	5℃未満	5	8	10	16	15	28	28
コンクリートの 圧縮強度	5.0 N/mm ²		設計基準強度の50%		設計基準強度の 85%		100%	

- 注1 片持ちり、庇、スパン9.0m以上のはり下は、工事監理者の指示による。(養生期間は28日)
- 注2 大ばりの支柱の盛りかえは行わない。また、その他のはりの場合も原則として行わない。
- 注3 支柱の盛りかえは、必ず直上階のコンクリート打ち後とする。
- 注4 盛りかえ後の支柱頂部には、厚い受板、角材または、これに代わるものを置く。
- 注5 支柱の盛りかえは、小ばりが終わってから、スラブを行う。一時に全部の支柱を取り払って、盛りかえをしてはならない。
- 注6 上表以外のセメントを使用する場合は工事監理者の指示による。

6. 鉄骨工事 (施工方法等計画書)

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による
 日本建築学会「J A S S 6」 「鉄骨精度検査基準」 「鉄骨工事技術指針」
 社) 日本鋼構造協会「建築鉄骨工事施工指針」
 鉄骨製作管理技術者登録機構「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」
- (2) 工事監理者の承認を必要とするもの
 製作工場 製作要領書 工作図 施工計画書
 認定または登録工場 (大臣認定 グレード以上 都登録 T1 T2 T3ランク)
 材料規格証明書または試験成績書
 鋼材 高力ボルト 特殊ボルト 頭付スタッド
 社内検査表
- (3) 工事監理者が行う検査項目
(■印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること)
 現状検査 組立・開先検査 製品検査
 建方検査
- (4) 接合部の溶接は下記によること
 鉄骨造等の建築物の工事に関する東京都取扱要綱 (建築構造設計指針第12章)
 日本建築学会「溶接作業規程、同解説」、II、III、IV、V、VI、VII、VIII、IX
 日本建築学会「鉄骨工事技術指針 工事現場施工編」
- (5) 接合部の検査
 溶接部の検査 (検査結果は後日工事監理者に報告すること)

検査箇所	検査方法	検査率又は検査数			備考
		社内	第三者	工事監理者	
<input checked="" type="checkbox"/> 完全溶込み溶接部 (突合せ溶接)	外観検査 (※)	% 値	% 値	% 値	※平成12年建設省告示 第1464号第二号による (目視及び針測) ※試験箇所数は、JASS6に準ずる。
	超音波探傷検査	% 値	% 値	% 値	
	内質検査 (注)	% 値	% 値	% 値	
	マクロ試験・その他	値	値	値	
	外観検査 (※)	% 値	% 値	% 値	

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるために自ら契約した検査会社をいう。
(注) 東京都の要綱に基づき、必要となる建築物の場合に実施する。

- 注1) 現場溶接部については原則として第三者検査機関による全数検査とし、外観検査、超音波探傷検査を100%行うこと
- 注2) 知事が定めた重大な不具合が発生した場合は、是正前に対応策を建築主等に報告すること
- 内質検査 硬さ試験 示温塗料塗布
- 高力ボルトは「J I S B 1 1 8 6 の高力ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを産金外径2倍以上の範囲でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。ただし、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面あらかしが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。

- 高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付けの順序は部材が十分密着するよう注意して行う。また、締付けは一次、二次締めとする。
締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行われているか検査する。

(6) 防錆塗装

- 防錆塗装の範囲は、高力ボルト接合の摩擦面及びコンクリートで被覆される以外の部分とする。錆止めのペイントは、 J I S K 5 6 2 1、 J I S K 5 6 2 5、 を使用して、4つ星2回塗りを標準とするが、実状に応じて決定すること。
- 現場における高力ボルト接合部及び接合部の素地調査は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めペイントを使用し2回塗りとする。

(7) 耐火被覆の材料

7. 設備関係

- 特記以外の貫通孔は原則として設けない。設ける場合は設計者の承認を得ること。
- 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
- 床スラブ内に設備配管等を埋込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし、管の間隔を管径の3倍以上かつ5cm以上を原則とする。
- 第129条の2の3第一号
- 第129条の2の3第二号
- 第129条の2の3第三号

8. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること。
- 必要に応じて記録写真を振り保管すること。
-

工事名称	消防車庫改築・防災備蓄倉庫新築工事	工事年度	令和7年度		
工事場所	座間味村字座間味牧治1412-3	図面名称	構造設計標準仕様書		
発注機関	座間味村役場 総務課	縮尺	NO SCALE		
摘要		図面番号	S-01		
検印	管理建築士	設計	製図	名称	株式会社 アート設計
				資格者氏名	前川 朝貞 第114945号
				登録番号	(株)アート設計 第153-95号
				所在地	那覇市銘苅3丁目23番16号